Ⅲ　旧芝離宮庭園におけるこれまでの取組

１．保存に関する取組の現状

1-1　遺構の保存

大泉水とその周辺は、江戸時代からの地割が比較的よく残されているが、それ以外の場所では、離宮としての整備や、運動施設の整備等により、江戸時代の地割や景観を把握することが難しい。

本園では大正 13（1924）年に東京市に下賜されて以降、遺構調査を１箇所行っている。

昭和 57（1982）年に、浜松町駅高架式歩行者道架設工事に伴い、本園南西側のデッキ橋脚部付近及び本園南側の一角について、遺構の確認を主目的とした発掘調査を実施した（図３－１）。その結果、江戸時代後期の屋敷と掘割を画すものと見られる石垣、石組溝、木樋等が検出されたほか、17 世紀後半から幕末頃のものと見られる陶磁器類をはじめ木製品などの日常生活用品の遺物が大量に出土した。また、明治期の土層からは、宮内省の文字入りの遺物が、それ以降の土層からは、震災時と見られる瓦礫が検出された。

特に石垣について、本園南西部の調査区では、旧山崎勘解由邸の南西部に架設された木橋へ続く突出部と見られる石垣が確認されたほか、延宝年間（1673～1680）の本屋敷地の埋め立て造成や、天明２（1782）年の一部埋め立てに伴うと見られる、掘割とを画す石垣などが検出された。また、南部の調査区では、石垣と、石垣に沿って庭園の内側に盛られた土塁状の遺構などが検出された。

これらの調査を受け、文化庁からは石垣の現状保存の意見が出され、高架式歩行者道の設置協議、設計変更などが行われた。その結果、一部やむを得ず撤去された石垣や、前代に既に散乱状態にあった石垣の石は、敷地内に移設復元を行うなど、その保護や活用等が図られている。

図３－１　旧芝離宮庭園の遺構調査箇所
旧芝離宮庭園-浜松町駅高架式歩行者道架設工事に伴う発掘調査報告-/昭和 63 年/旧芝離宮庭園調査団

1-2　動物・植物及び水の管理

（１）　動物の管理

本園は、周辺を鉄道や高層の建築物等に囲まれた立地であるが、まとまりのある緑と水面を有することから、多様な野鳥を確認することができる。

昭和 56（1981）年から昭和 62（1987）年までの環境調査では、本園に 10 目 23 科 62 種の鳥類が確認された。このうち、カイツブリ・キジバト・ヒヨドリ・シジュウカラ・カワラヒワ・ハシブトガラスの繁殖と、オナガの営巣、ツバメ・ハクセキレイ・スズメ・ムクドリの餌運びと幼鳥が確認された。62 種の鳥類のうち、水面を利用する水鳥などは、そのほとんどが本園北側に集中する傾向が見られた。

このほか、ヒドリガモ、オナガガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ジョウビタキ、ツグミなども観察されている。

鳥類以外にも、淡水となった大泉水の護岸などで、フナムシなどの海岸に生息する生物を見ることができる。

図３－２　大泉水を泳ぐホシハジロ
（平成 29 年 11 月 20 日撮影）

図３－３　芝地に立つハクセキレイ
（平成 29 年 11 月 20 日撮影）

（２）　植物の管理

１）樹木の管理

ア）植栽調査結果

本園では昭和 56 年及び昭和 59 年に環境調査を行っており、昭和 59 年の調査では、落葉樹 51 種、常緑樹 44 種、針葉樹３種、つる植物３種、特殊樹木４種が確認された。

イ）生育する植生

本園は、江戸初頭までは海浜であり、ヨシが生えた干潟が広がり、将軍家の御鷹場だったとされている。作庭当初はクロマツやタブノキなどの植栽がなされた。現在では、アカガシ、シラカシ、マテバシイ、スダジイ、トウネズミモチ、シュロ、ヒイラギ、モチノキ、モッコク、イヌツゲ、サツキ、サザンカ、ヤツデ、カヤ、ツバキ、ヤブニッケイ、サンゴジュ、イチイ等の常緑樹、ケヤキ、オオシマザクラ、ウメ、コナラ、ムクノキ、コブシ、ハゼノキ、フジ、エノキ、ドウダンツツジ、イチョウ等の落葉樹が見られる。

本園はクロマツが多く、樹高 10m以上の高木層ではタブノキが多い。その他ではスダジイとトウネズミモチが多く見られ、庭園景観の主木が常緑樹にある。タブノキ等は江戸期の地盤に成立したものであり、旧浜離宮庭園においてもその特徴を確認することができる。

ウ）植栽の管理

樹木の管理については、「東京都における文化財庭園の支障樹木調査報告書」（平成 19（2007）年１月）に基づき、支障木と判断した樹木を順次伐採している。支障木としては、遺構や石積に影響を及ぼす樹木、庭園景観等に影響を及ぼす樹木、安全管理上支障がある樹木を対象としている。外周部の植栽は、基本的に大きな手を加えることはないが、遮蔽機能や、見通しの確保等に配慮しながら、維持管理を実施している。これまでも、生育状況が悪化した際には、専門家に意見を聞き、伐採や植替えなど必要な対応を行っている。

２）地被類の管理

地被類の管理については、「東京都立文化財庭園維持管理マニュアルの運用について」（平成 22（2009）年４月）に基づき、補植については表土保全を目的とした郷土種の使用、群落を形成し管理区域を逸脱したものは定期的な除去・間引き等の実施、一定の刈り込み高の確保、貴重な在来種の野草類の保全、株物は庭園との調和を意識した大きさ管理など、庭園景観に調和しつつ、支障とならないよう適切な管理を行っている。

（３）水の管理

本園の泉水は、かつては海水を取り入れた潮入の池だったが、現在は淡水となっている。泉水の水は、弓道場北側にある浄化施設を用いて、循環することで維持している（図３－４）。

淡水となった昭和 30 年代以降は、大泉水の水は、雨水や周辺から滲み出す地下水により供給されている。そのため、特に夏の水温上昇時には化学的酸素要求量（COD）が上昇し、透明度が低下する傾向にある。

平成 21 年度の水質の調査では、１月には水温が 2.6℃まで下がるものの、８月には 33.2℃まで上昇している。このため、12 月～５月にかけては、5.0～6.0mg/L だった COD 値が、６～11 月にかけては 10.0～13.0 mg/L となっており（表３－１）、夏場を中心に、混濁物が増加しやすい状況であることがうかがえる。

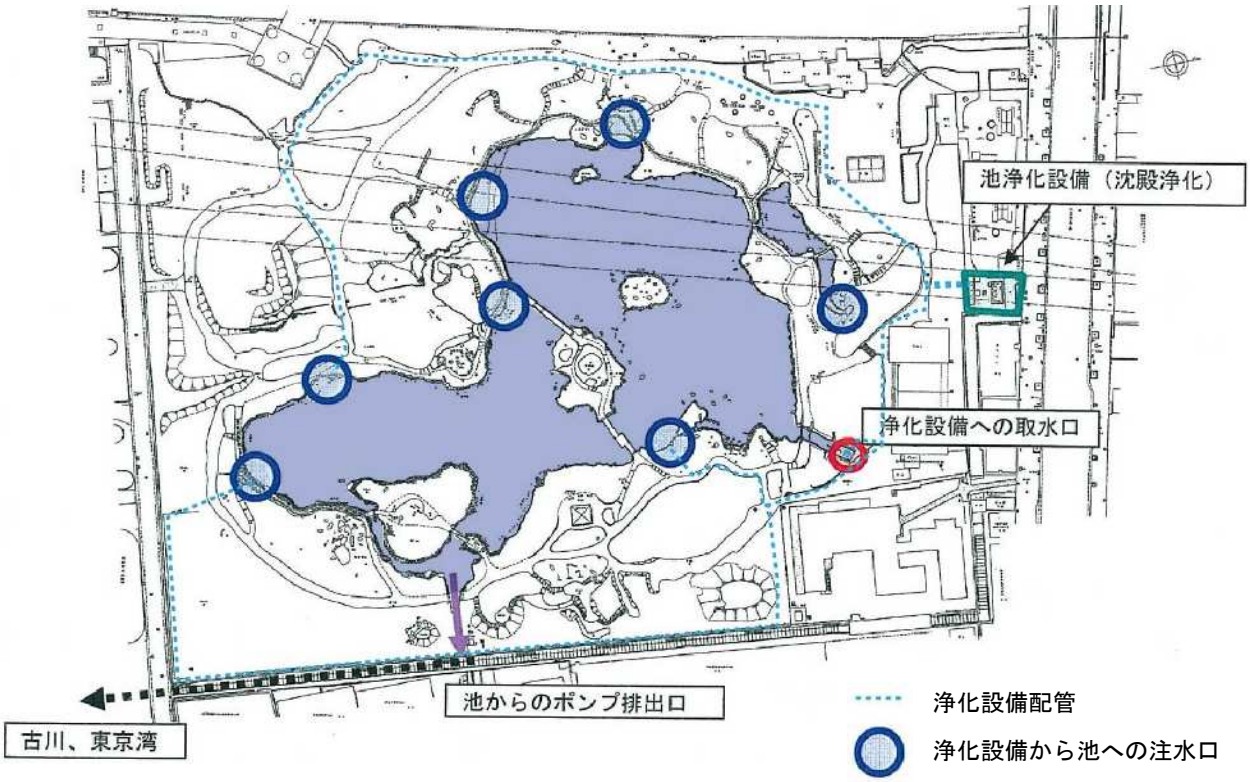

図３－４　園内浄化設備等位置図
（平成 21 年度調査報告書及び旧芝離宮恩賜庭園汐入り調査報告書の図を基に作成）

年	平成20年									平成21年		
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温（℃）	17.5	16.6	27.0	32.2	33.2	27.2	20.4	15.9	7.9	2.6	8.6	16.1
色相	透明	透明	少し緑茶色	少し茶褐色	緑茶色	少し緑色	少し茶色	少し緑色	少し茶色	少し緑色	緑茶色	緑色
臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	少し生臭い	無臭	無臭	無臭
透明度（cm）	58	40	35	34	32	53	43	65	43	129	40	63
COD（mg/L）	6.0	5.0	13.0	10.0	10.0	13.0	13.0	10.0	5.0	5.0	5.0	5.0

表３－１　大泉水の水質（平成 21 年度調査報告書）

２．活用における取組の現状

2-1　利用の状況

本園の活用における取組の現状を以下に整理する。

（１）来園者の動向

本園の平成元年度から平成 29 年度までの入園者数の推移を表３－２に示す。

入園者数は、昭和 53 年度から昭和 63 年度にかけては、平均 4.5 万人程度の来園者であったが、平成に入り、初年度の来園者は 56,531 人にのぼり、平成 17 年度には 10 万人を突破した。また、平成 19 年度には平成元年度の約２倍となる 114,168 人を記録した。その後、東日本大震災や豪雪等で、他の都立庭園の来園者数が減少した際も、本園は来園者数の大きな減少はなく、来園者は年々増加傾向を示し、平成 28 年度には 18 万人を突破している。

外国人の来園者は、集計を始めた平成 24 年度では約 0.7 万人程度であったが、その翌年からは、1 万人から 1.4 万人で推移している。

平成 18 年度の利用者満足度調査、及び平成 19 年度のアンケート調査では、本園の利用特性として、周辺の企業に勤める利用者が多いことが挙げられている。

表３－２　旧芝離宮庭園の入園者数【人】

	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度
総入園者数	56,531	62,172	65,483	68,773	67,493	50,701	49,128	41,952

	平成9年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度
総入園者数	39,855	37,403	51,955	65,398	77,341	82,148	82,785	90,010

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
総入園者数	100,521	106,204	114,168	123,339	136,810	126,131	123,889

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
総入園者数	130,093	135,072	155,370	162,748	181,993	188,156
外国人数／割合(%)	6,931 （5.3%）	11,715 （8.7%）	10,739 （6.9%）	10,193 （6.3%）	12,069 （6.6%）	14,279 （7.6%）

（２）施設の利用状況

本園には、運動施設として弓道場が設けられている。

弓道場の利用は個人に限られており、利用時間は月曜日の午前を除く午前９時から午後４時までとなっている。利用者は、平成 26 年度 6,175 人、平成 27 年度 7,228 人、平成 28 年度 6,667 人、平成 29 年度 6,134 人である。

本園が所在する港区には、区立のスポーツセンターの武道場（和・洋弓）のほかに、弓道場（和弓）１箇所があるが、本園の弓道場は、大会や団体の貸切利用がないことから、個人練習が可能な施設として普及している。

図３－５　弓道場
（平成 29 年７月 17 日撮影）

2-2　多様化するニーズへの対応

２－１の利用の状況より、本園の利用者数は年々増加している。来園者ニーズに対応するため、本園で実施してきた取組を以下に示す。

（１）開園時間の延長

本園は原則、年末年始を除いて毎日開園している。開園時間は、原則午前９時から午後５時までである。

近年では、来園者からの要望を踏まえ、ゴールデンウィーク期間中に、午後６時まで、開園時間の延長を行っている。

（２）園内行事の充実

本園では歴史や日本の伝統文化を体感できる行事を、年間を通して実施している。平成 28 年度に行った主な行事を表３－３に示す。

表３－３　旧芝離宮庭園年間行事（平成 28 年度）

開催月	イベント名	主な内容
１月	正月開園	伝統芸能の公演（邦楽等）、むかし遊び
３～４月	桜の演奏会	邦楽の演奏会
４～５月	ゴールデンウィーク開園時間延長	行楽期であるゴールデンウィークに合わせて開園時間を１時間延長
７月	旧芝離宮～七夕・夏の涼～	邦楽の演奏会、小田原市 PR ブース
６～７月	七夕飾り	来園者による七夕飾り・展示
10～11 月	小さい秋みぃつけた！	邦楽の演奏会、子ども向け工作教室、小田原市 PR ブース、四季のパネル展
10～12 月	紅葉めぐりスタンプラリー	都立庭園の紅葉の見ごろに合わせたスタンプラリーの実施
11 月	庭さんぽ	職員による庭園案内
11～12 月	いい庭キャンペーン	11 月 28 日(1128)をいい庭の日とし、庭園にご来園いただくお客様へサービスを行う
５・11 月	伝統技能見学会	「マツのみどり摘み」、「雪吊り」の見学会

本園独自のイベントとして、作庭した大久保忠朝ゆかりの地である小田原市と連携し、７月の「旧芝離宮～七夕・夏の涼～」及び 10～11 月の「小さい秋みぃつけた！」において、小田原市の紹介展示、小田原鋳物などの伝統工芸品販売などを行っている（図３－６）。

また、平成 29 年度からは、近傍にあり、ともに離宮として利用されていた旧浜離宮庭園との相互利用を促進するための取り組みとして、通常の料金より安く２庭園に入場できる有効期限のない「園結びチケット」（図３－７）の販売を行っている。

図３－６　「小さい秋みぃつけた！」の小田原伝統工芸品販売（東京都公園協会ホームページより）

図３－７　園結びチケット

（３）花や紅葉の見どころ

来園者に花や紅葉のある景色を楽しんでもらうため、園内の植栽や花期に合わせた情報を、ホームページやパンフレット等を通じて発信している（表３－４、図３－８）。

表３－４　旧芝離宮庭園の花みごろ
旧芝離宮恩賜庭園-江戸の風雅、壮麗な石組-（東京都公園協会）

季節		花の名前	季節		花の名前
春	３月	サンシュユ、ボケ、ジュウガツザクラ	秋	９月	ハギ、ヒガンバナ
	４月	ソメイヨシノ、サトザクラ、ユキヤナギ、ハナカイドウ、セイヨウシャクナゲ		10 月	キンモクセイ、コムラサキ
	５月	ツツジ、シラン、アヤメ、フジ、カキツバタ、サツキ		11 月	ツワブキ、ヒイラギ
夏	６月	アジサイ、インドハマユウ、シモツケ、ナデシコ、ヤブカンゾウ	冬	12 月	ハゼ、ジュウガツザクラ
	７月	キキョウ、ヒメガマ		１月	ロウバイ、スイセン
	８月	サルスベリ、タカサゴユリ		２月	ウメ、ツバキ

図３－８　旧芝離宮恩賜庭園パンフレットによる花暦の情報発信（東京都公園協会）

（４）ユニバーサルデザインの対応

都立庭園では、東京都福祉のまちづくり条例等に基づき、砂利道走行可能なタイヤの太い車いすの無料貸出、車いす通行可能ルートの表示などを行っている（図３－９）。

また、外国人来園者への対応として、英語、中国語（簡体・繁体）、フランス語、スペイン語、韓国語表記の庭園パンフレットを作成し、配布している。

図３－９　車いす通行可能ルート
旧芝離宮恩賜庭園パンフレット

（５）自動体外式除細動器（ＡＥＤ）など高齢化社会への対応

高齢化の進行に伴い本園の来園者も高齢者が多く、池への転落や熱中症などの事故が発生している。本園ではＡＥＤを管理所（サービスセンター）に設置し、庭園職員には応急手当やＡＥＤの研修を実施している。また、管理所には上級救命講習を修了した職員を配置し、緊急の事態に備えた態勢を整えている。

（６）回遊ルートの紹介

本園では、滞在時間の少ない利用者でも効率的に園内を観賞できるよう、泉水を中心に、本園の代表的な庭園景観を巡ることのできるルートを紹介している（図３－10）。

［モデルコース１　30分の散策］

❶藤棚→❷雪見灯籠→❸梅林など→❹大山→❺枯滝→❻石柱→❼西湖堤→❽中島→❾九尺台→❿大島→⓫根府川山→池を反時計回りに進み、中島を渡る。→⓬海水取入口

［モデルコース２　15分の散策］

❶藤棚→❷雪見灯籠→❸枯滝→❹石柱→❺西湖堤→❻中島→❼海水取入口

図３－10　旧芝離宮庭園の歩き方（東京都公園協会）

３．整備における取組の現状

整備における取組の成果をゾーンごとに以下に示す。

（１）中島を中心とする泉水とその周辺の景観ゾーン

①大泉水につながる小池付近の護岸修復

平成 22 年度に、大泉水につながる小池付近の護岸（図３－11、12）を修復した。この修復に当たっては、護岸の一部が崩落し、重要な遺構が損なわれた状態であったことから、庭園景観を損なわないように、石は空積としている。

また、小池付近の石組の据え直しや、鯛橋付近の護岸の修復を行っている。

平成 20 年度以降は、その他の大掛かりな修復や整備等は行っておらず、一部劣化や破損が見られる築山や沢飛び、護岸などは、新たに調査及び修復を検討する必要がある。

図３－11　小池護岸（修復前）
（平成 19 年）

図３－12　小池護岸（修復後）
（平成 22 年）

②木橋の改修

大泉水の中島と園路をつなぐ木橋に老朽化による損傷が見られるため、平成 29 年 10 月中旬に改修のための遺構調査を行っている（図３－13、14）。

図３－13　木橋（調査中）①
（平成 29 年）

図３－14　木橋（調査中）②
（平成 29 年）

Ⅳ　周辺のまちづくりの動向

１．　まちづくりの動向の整理

本園の周辺は概成の再開発事業を含め、複数の都市再生特別地区の事業化が進行しており、今後も園内からの眺望だけでなく、都市の構造も大きく変化していくことが予想される。このような中で、引き続き本園の文化財庭園としての価値を保存し、活用を図るため、周辺で進むまちづくりの動向を整理する。

図４－１に、近年における本園周辺の再開発事業等の動向をまとめる。

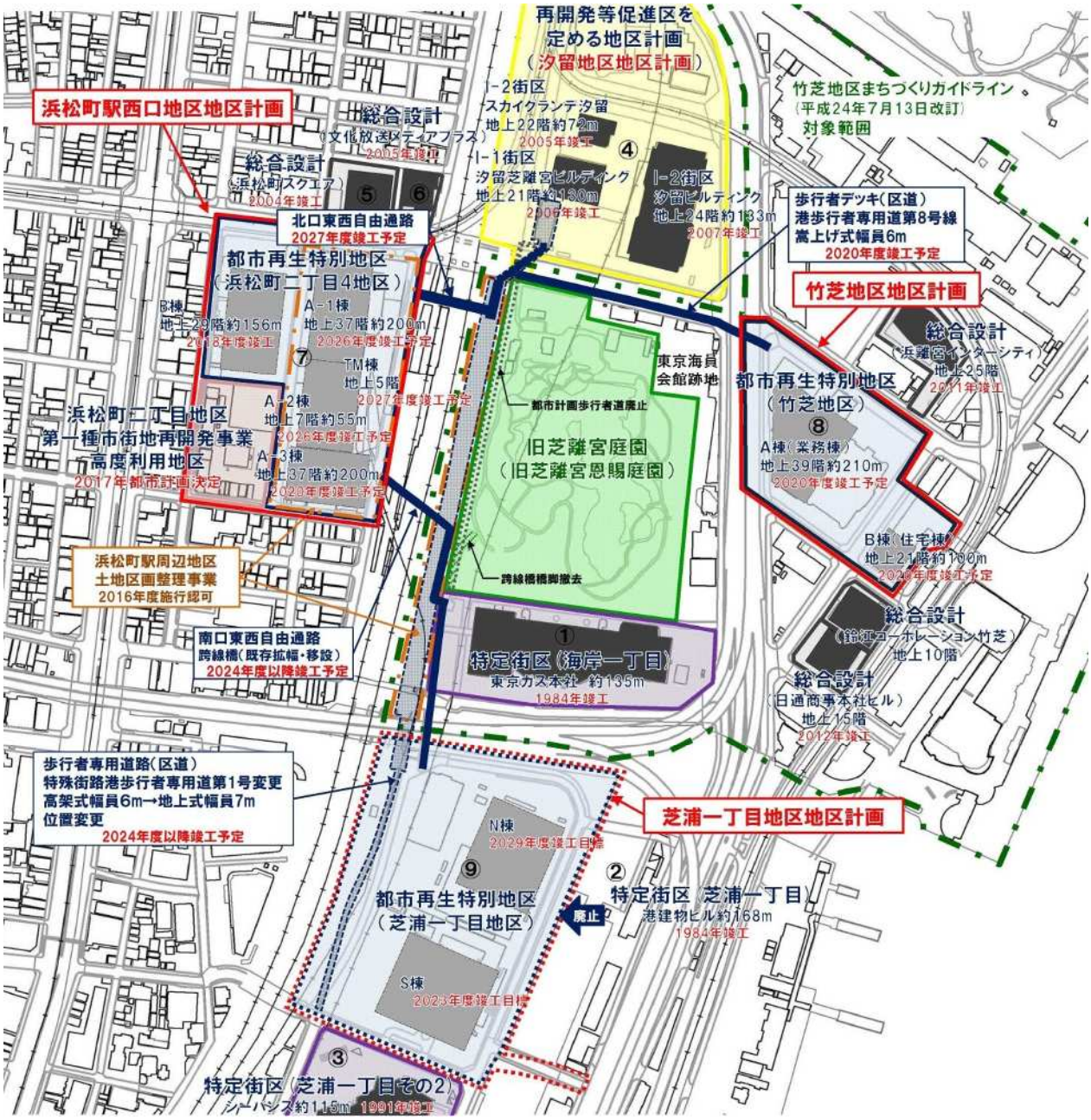

図４－１　　本園周辺の開発動向図

本園の北側で行われた汐留地区の再開発に次いで、東側の地区で、国家戦略都市計画建築物等整備事業に関連する都市再生特別地区（竹芝地区）が、西側に近接する地区では都市再生特別地区（浜松町二丁目４地区）が決定され、それぞれ事業化が図られている。

こうした中、歩行者ネットワーク整備（図４－２）の一環として、本園北側の港歩行者専用道第８号線の工事が進むほか、西側の港歩行者専用道第１号線が、高架式から地上式になりＪＲ線路側へ位置が変更されるなど、本園を取り巻く周辺環境は大きく様変わりしようとしている。

１）歩行者ネットワークの整備

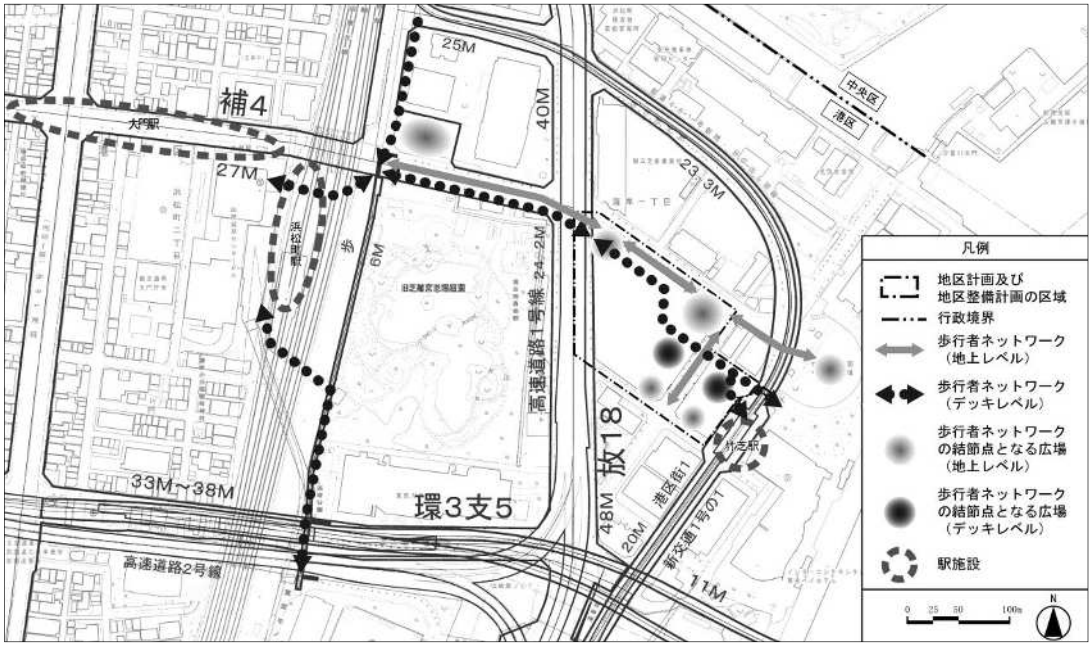

図４－２　本園周辺の歩行者ネットワークの概要　竹芝地区地区計画（参考図）

図４－２は本園周辺で計画されている歩行者ネットワークの概要であり、現在、本園の北側に沿って、浜松町駅と竹芝地区を結ぶ高架の港歩行者専用道第８号線の工事が進められている。この歩行者専用道路は地上３階高さの歩行者デッキとして、本園の北側に設けられ、将来的に橋上化されるＪＲ浜松町駅の改札から竹芝地区までを連絡する計画であり、歩行者の動線や園内からの眺望景観の変化が想定されている。

この歩行者デッキは既に設置されている汐留地区からの歩行者デッキ、今後整備予定のＪＲ線路を東西に跨ぐ東西自由通路と連絡される計画である（図４－３）。

図４－２　歩行者デッキの整備イメージ図

都市再生ステップアップ・プロジェクト（竹芝地区）イメージパース　東京都都市整備局

２）都市再生特別地区（浜松町二丁目４地区）事業

本園の西側にはＪＲ浜松町駅が隣接し、東京モノレール、バスターミナル、地下鉄なども近接する交通の結節点である。国際化が進む羽田空港の玄関口として重点的拠点にも位置付けられている（図４－４）。この区域では、現在、世界貿易センタービルディングを主体とした開発事業が進められており、浜松町駅の改修とともに、ＪＲの線路を東西に跨ぎ、西側街区と東側の歩行者デッキを結ぶ、東西自由通路の整備が計画されている。

図４－４　本園の西側の計画と歩行者デッキイメージ
国土交通省　平成 29 年 9 月

３）本園北側の再開発事業　（汐留地区地区計画）

汐留地区の再開発事業により複数の高層建築物が建築され、本園の北側に位置している（図４－５）。また、この街区と浜松町駅を結ぶ歩行者デッキ（汐留デッキ）が既に設けられており、今後整備されるＪＲ浜松町駅の東西自由通路及び本園北側の歩行者デッキと結ばれる予定である。

図４－５　本園の北側の現況（新建築　2015）
ＪＲ浜松町駅の西側より、本園及び北側街区の眺望
－－－－・　本園の敷地区域